

東北地方 1 か月予報

(1 1 月 2 0 日から 1 2 月 1 9 日までの天候見通し)

平成 1 6 年 1 1 月 1 9 日

仙台管区气象台発表

< 予想される向こう 1 か月の天候 >

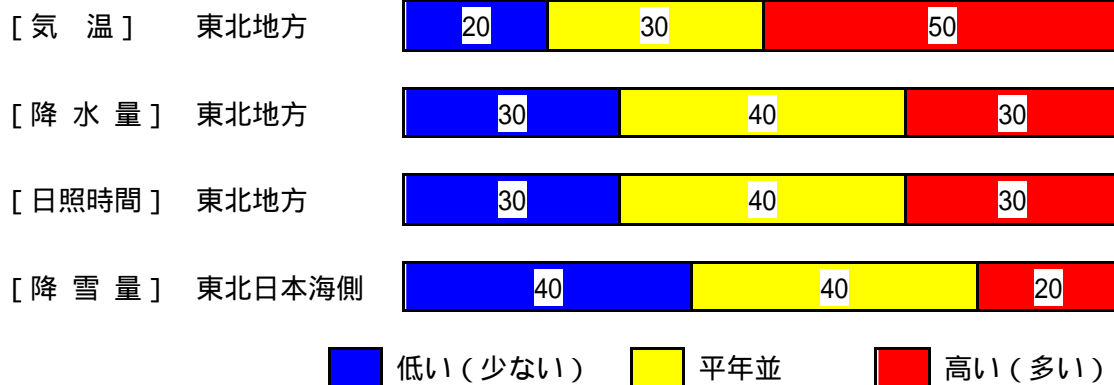
向こう 1 か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となりますが長続きしないでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

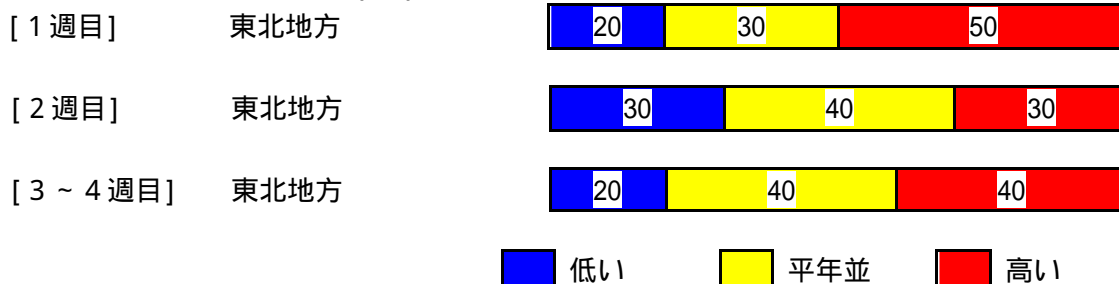
向こう 1 か月の平均気温は高い、降水量は平年並、日照時間は平年並、東北日本海側の降雪量は平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1 週目は高い、2 週目は平年並、3 ~ 4 週目は平年並か高いでしょう。

< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



< 予報の対象期間 >

1 か月 : 1 1 月 2 0 日 (土) ~ 1 2 月 1 9 日 (日)

1 週目 : 1 1 月 2 0 日 (土) ~ 1 1 月 2 6 日 (金)

2 週目 : 1 1 月 2 7 日 (土) ~ 1 2 月 3 日 (金)

3 ~ 4 週目 : 1 2 月 4 日 (土) ~ 1 2 月 1 7 日 (金)

< 次回発表予定等 >

1 か月予報 : 毎週金曜日 1 4 時 3 0 分 次回は 1 1 月 2 6 日

3 か月予報 : 1 1 月 2 5 日 (木) 1 4 時 0 0 分

< 参考資料（平年並の範囲等） >

（１）30 年平均値（向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の平均気温）

	気 温 ()	降 水 量 (mm)	日照時間 (時間)	降 雪 量 (cm)	気 温()		
					1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
大船渡	5.0	59.3	132.8	0	6.8	5.7	4.1
新庄	3.0	206.9	40.2		4.9	3.7	2.0
若松	3.5	80.8	73.1	38	5.4	4.1	2.5
深浦	4.0	142.9	40.8	26	6.0	4.7	3.1
青森	3.0	142.9	61.0	118	5.0	3.7	1.9
むつ	2.8	104.4	78.0		4.9	3.5	1.8
八戸	3.3	45.7	125.3	0	5.2	4.0	2.3
秋田	4.3	178.0	53.2	30	6.2	5.0	3.4
盛岡	2.4	76.6	101.1	23	4.2	3.0	1.4
宮古	4.6	56.8	144.6	0	6.4	5.2	3.6
酒田	5.8	223.5	49.3	19	7.6	6.4	4.9
山形	3.9	79.2	83.8	36	5.7	4.5	3.0
仙台	5.9	34.2	137.4	0	7.7	6.5	4.9
石巻	4.9	34.4	146.6		6.8	5.6	4.0
福島	5.7	39.6	125.2	8	7.5	6.3	4.8
白河	4.3	39.8	151.3		6.1	4.9	3.4
小名浜	7.6	54.4	172.6	0	9.4	8.1	6.6

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

（２）1971～2000 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4～+0.5	81～ 100	98～ 104	50～ 110
東北日本海側	-0.5～+0.5	91～ 107	93～ 107	62～ 111
東北太平洋側	-0.4～+0.5	66～ 101	96～ 105	38～ 108

（３）この予報期間の 1 週目、2 週目、3 ～ 4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3 ～ 4 週目
東北地方	-0.6～+0.6	-0.7～+0.7	-0.5～+0.7
東北日本海側	-0.6～+0.6	-0.8～+0.7	-0.5～+0.7
東北太平洋側	-0.6～+0.6	-0.7～+0.7	-0.4～+0.8

< 参考資料（利用上の注意） >

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1971～2000 年の 30 年間における各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 10％以下や 60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

東北地方 1 か月予報解説資料

平成 16 年 11 月 19 日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう 1 か月 (11 月 20 日 ~ 12 月 19 日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となりますが長続きしないでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は高いでしょう。

1 週目 (11 月 20 日 ~ 11 月 26 日):

期間の初めと終わりは、寒気や気圧の谷の影響で東北日本海側を中心に曇りや雨の所が多いでしょう。期間の中頃は高気圧に覆われて晴れる見込みです。なお、期間の終わりは東北北部や東北日本海側で雪に変わる所があるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

2 週目 (11 月 27 日 ~ 12 月 3 日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

3 ~ 4 週目 (12 月 4 日 ~ 12 月 17 日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となりますが長続きしないでしょう。平年と同様に、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側は晴れの日が多い見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

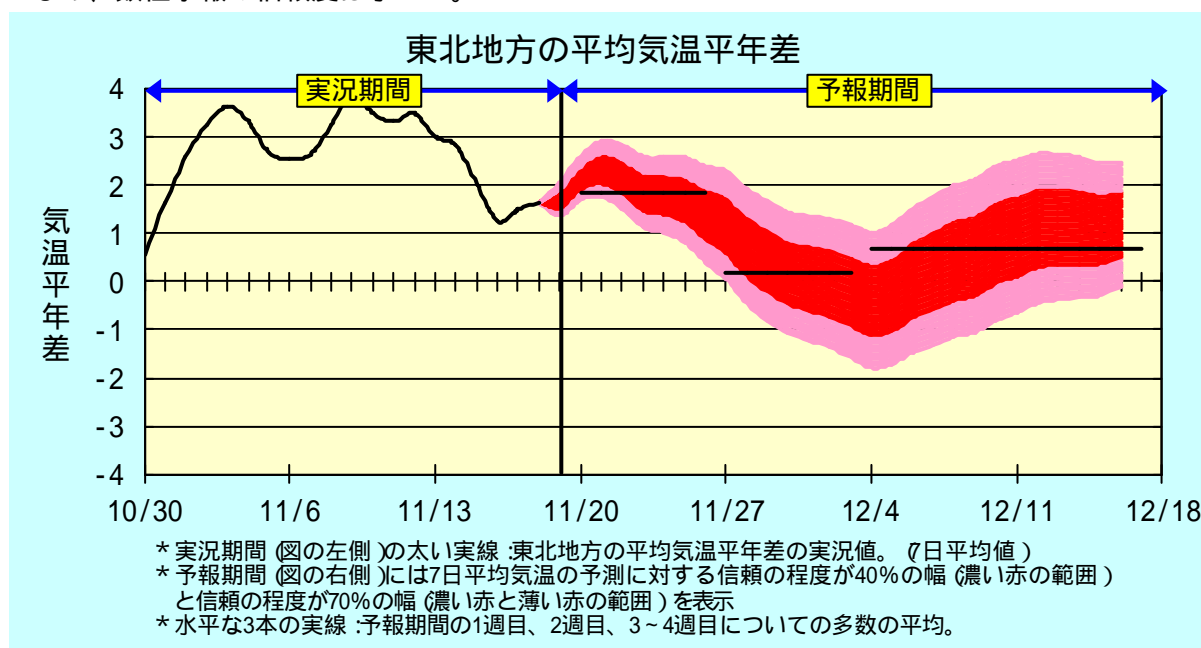
平年の晴れ日数

	向こう 28 日間	1 週目	2 週目	3 ~ 4 週目
東北日本海側	5.4 日	1.8 日	1.4 日	2.2 日
東北太平洋側	16.5 日	4.2 日	4.1 日	8.2 日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1 週目を「高い」、2 週目、3 ~ 4 週目を「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から 3 ~ 4 週目を「平年並か高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

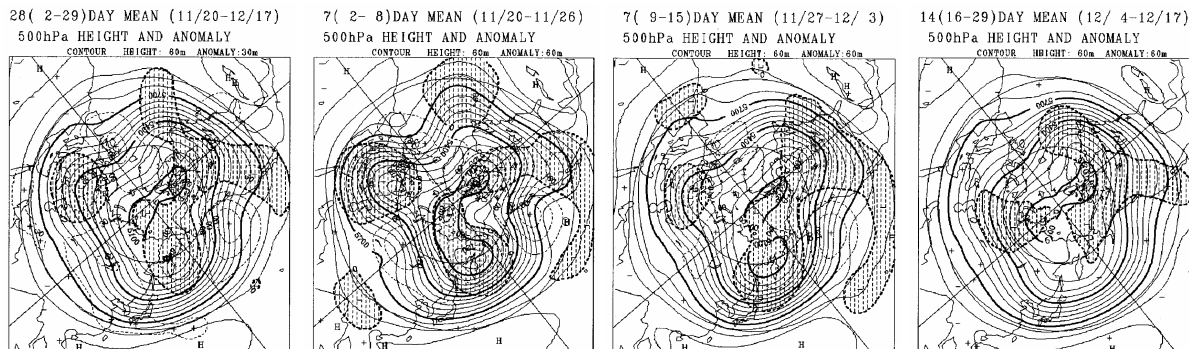


3．数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、カムチャツカ半島を中心に負偏差が広がるが、大陸から日本の南東海上にかけ強い正偏差に覆われる。日本付近の偏西風の流れは順調で、低気圧は数日の周期で通過する。

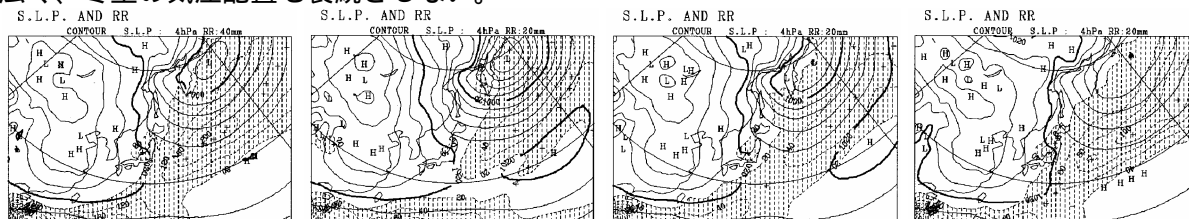
1 週目は、月平均と同様。2 週目は、カムチャツカ半島を中心とした負偏差が東北地方までかかり、一時寒気の南下が予想される。3～4 週目になると極東域は広く正偏差に覆われる。



地上気圧と降水量：

月平均では、大陸の高気圧の張り出しは強いが、アリューシャン低気圧は平年より弱い。日本付近の等圧線の間隔はまだ広く、低気圧は数日の周期で通過する。通過後は冬型の気圧配置となるが、長続きしない見込み。日本海側と日本の東海上にまとまった降水域がある。

1 週目は日本付近に大陸の高気圧が強く張り出す。2 週目は日本の東海上が低圧部となり、北日本は冬型の気圧配置となる。3～4 週目も冬型の気圧配置となるが、2 週目に比べ等圧線の間隔が広く、冬型の気圧配置も長続きしない。

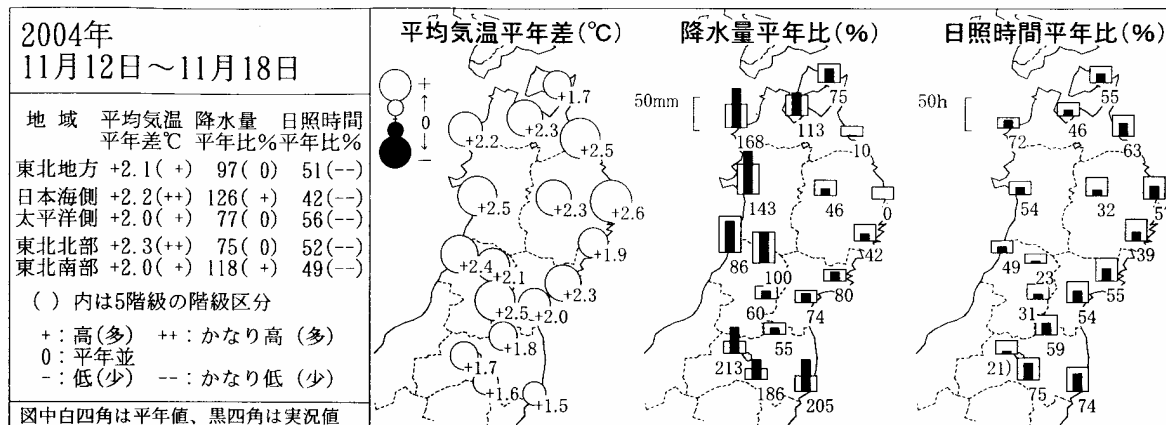


4．最近 1 週間（11 月 12 日～11 月 18 日）の天候の経過

この期間、寒冷前線や気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となった。このため、東北地方は寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。

なお、冬型の気圧配置となった16日は青森で初氷、盛岡で初雪を観測した。

平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北地方でかなり少ない。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）